

雌阿寒岳の火山活動解説資料（平成23年8月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成21年4月10日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1-①～⑥、図2）

ポンマチネシリ96-1火口の噴煙及びその他の火口の噴煙の高さは火口縁上200m以下で、低調に経過しました。

・山体内の熱の状況（図3）

全磁力連続観測¹⁾によると、96-1火口南側地下の温度低下を示す全磁力値の増加が2009年7月以降観測されていましたが、2011年1月以降はゆるやかな減少傾向に転じています。このことは、96-1火口南側地下の温度上昇を示している可能性が考えられます。

1) 96-1火口南側で観測した場合、全磁力値が減少する変化があると火山体内部で温度上昇があり、全磁力値が増加する変化があると火山体内部で温度低下があると推定されます。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦⑧、図4）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源はポンマチネシリ火口付近及び中マチネシリ火口付近の浅い所に分布しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図5～6）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成23年9月分）は平成23年10月6日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』及び『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平20業使、第385号）

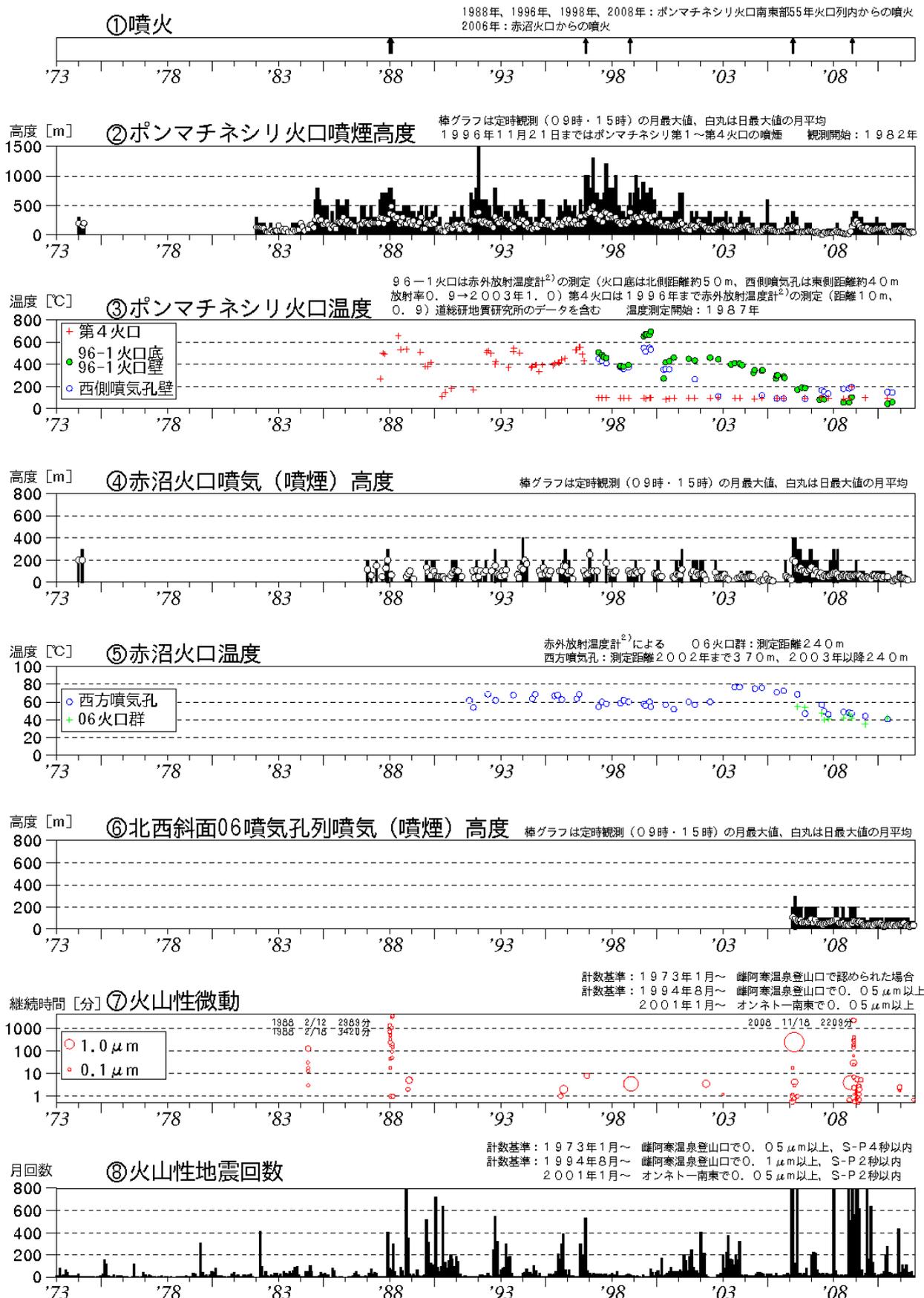


図1※ 雌阿寒岳 火山活動経過図（1973年1月～2011年8月）

2) 赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

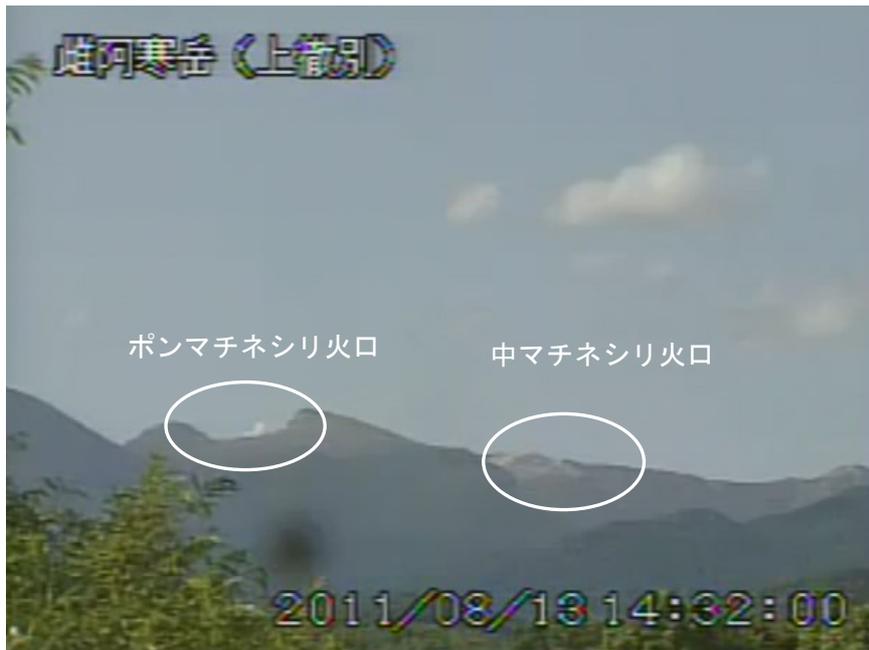


図2 雌阿寒岳 山体南側の状況（8月13日、^{かみてしべつ}上徹別遠望カメラによる）
白丸内はポンマチネシリ火口の噴煙及び中マチネシリ火口の噴気

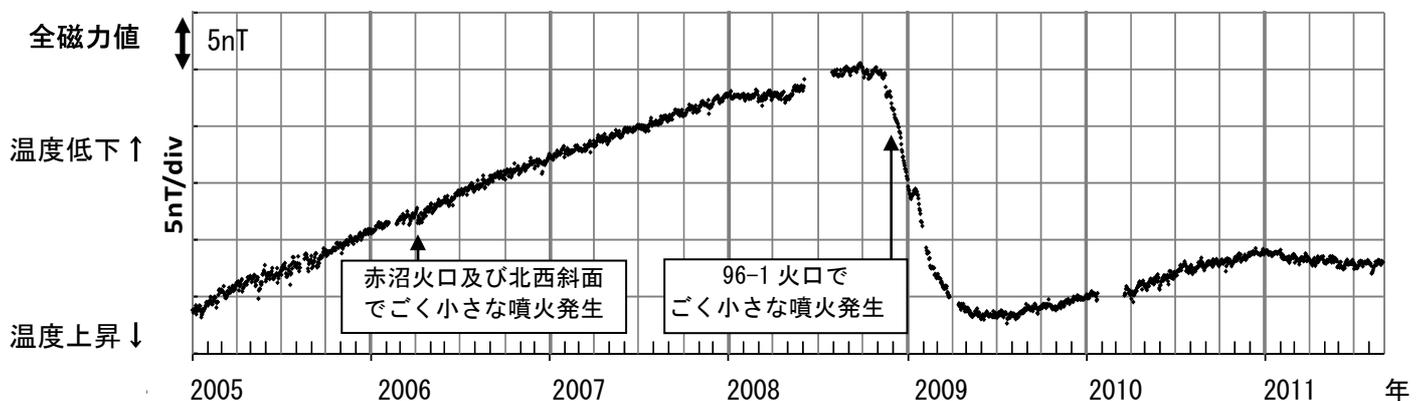
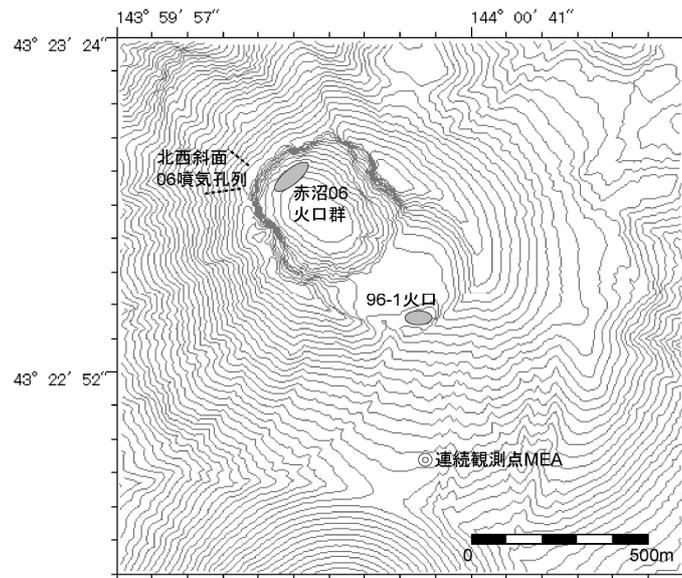


図3 雌阿寒岳 全磁力連続観測¹⁾による連続観測点 MEA（上図中◎）の全磁力値変化
（2005年1月1日～2011年8月29日）※グラフの空白部分は欠測

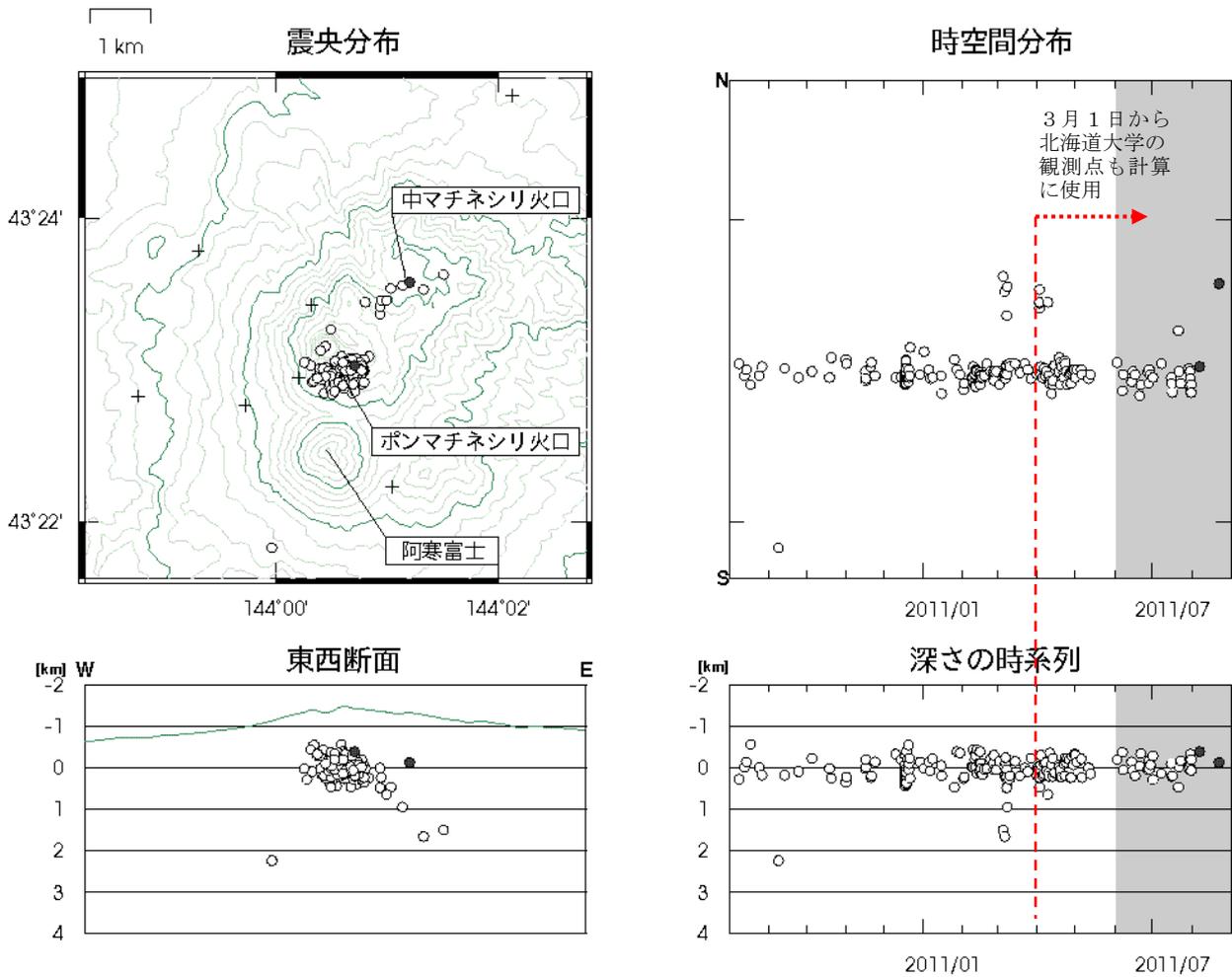


図 4 ※ 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布 (2010 年 8 月～2011 年 8 月)
 表示期間中、灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます。
 ○印：2010 年 8 月～2011 年 7 月の震源
 ●印：2011 年 8 月の震源
 +印：地震観測点

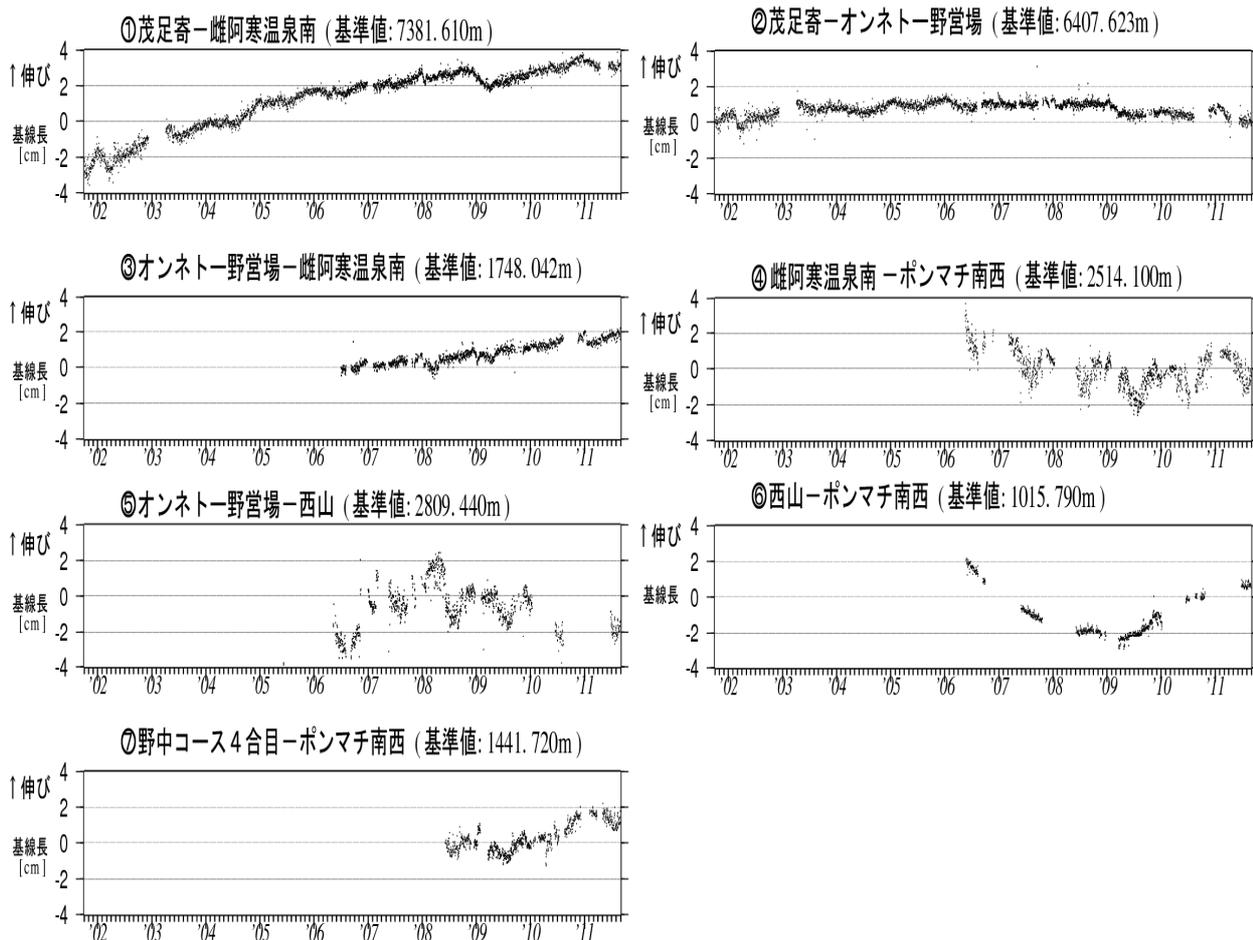


図5※ 雌阿寒岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年10月～2011年8月）

グラフの空白部分は欠測 GPS基線①～⑦は図6の①～⑦に対応

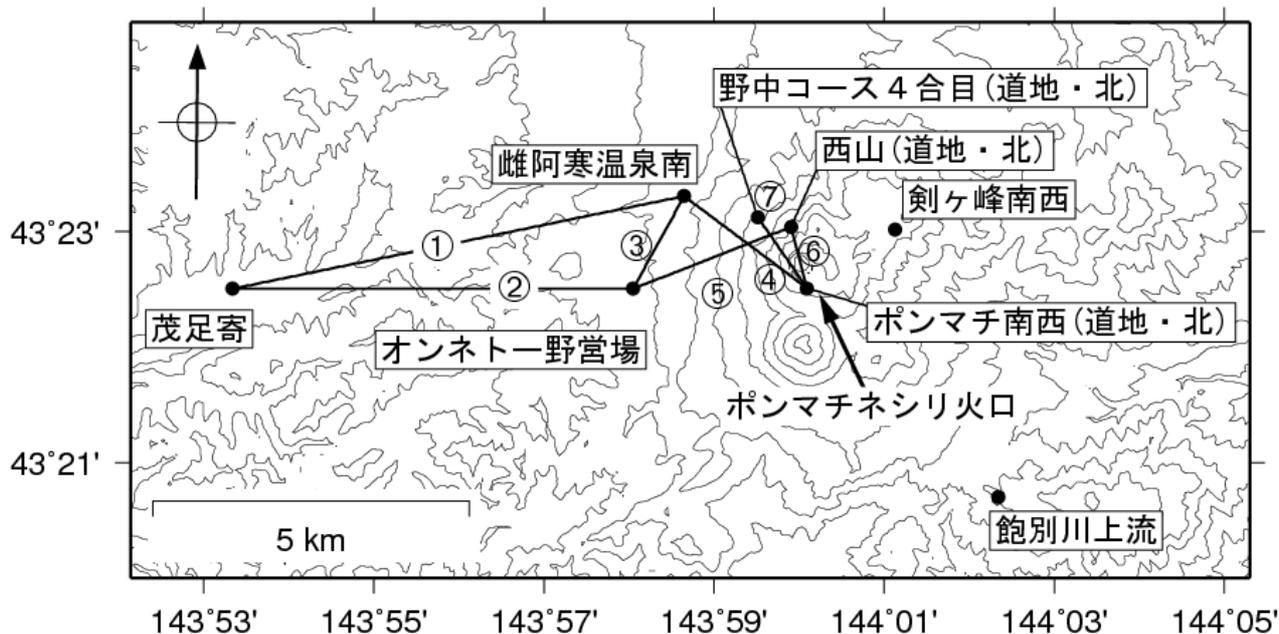


図6※ 雌阿寒岳 GPS連続観測点配置図

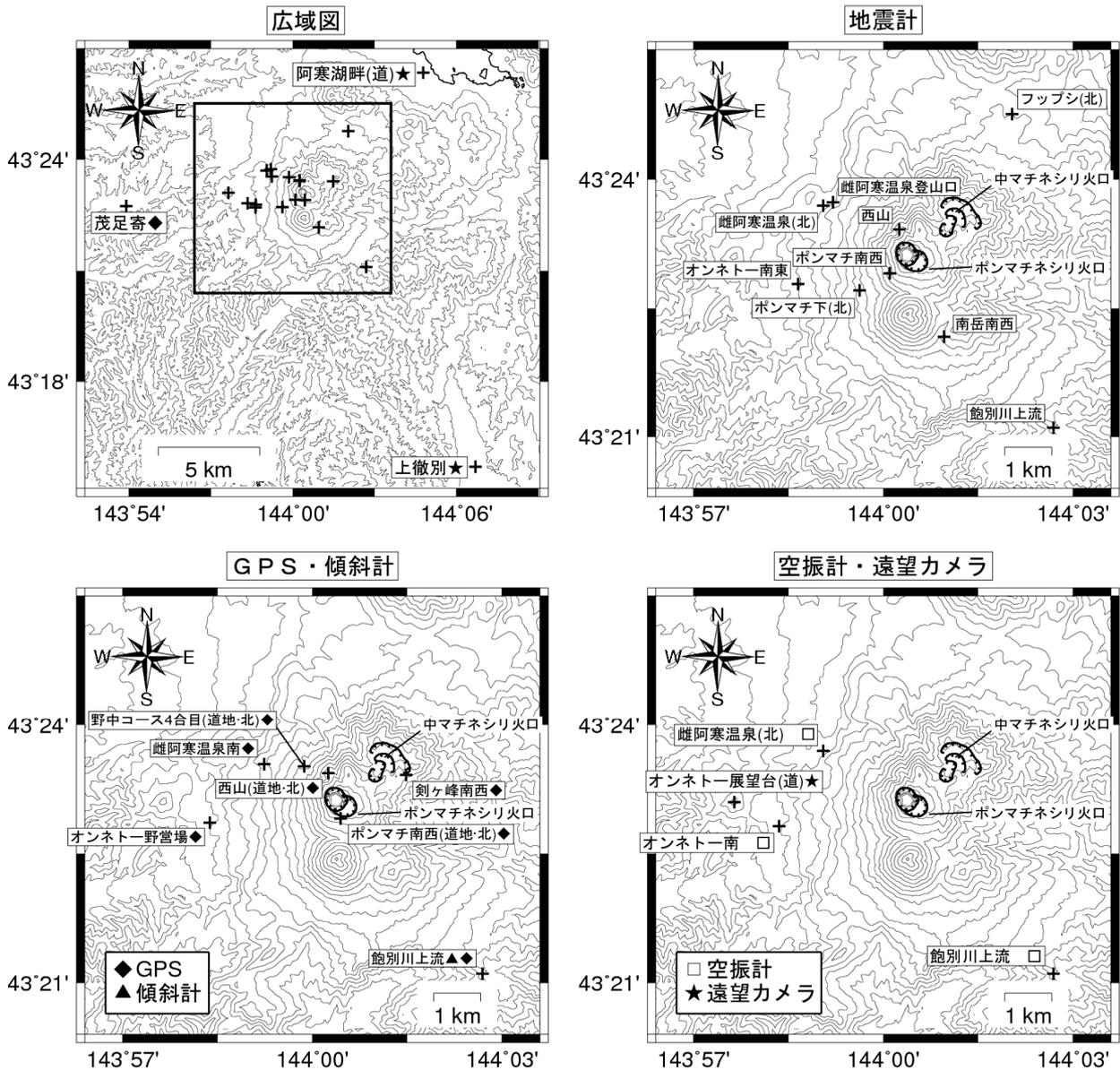


図7 雌阿寒岳 観測点配置図
 +は観測点の位置を示す
 他機関の観測点には以下の記号を付している
 (北) : 北海道大学
 (道地) : 道総研地質研究所
 (道) : 北海道